

【様式】

令和5年度 学校マネジメントシート

学校名（ 久居高等学校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校訓「意欲・誠実・創造」の理念のもと、学校生活の充実と確かな進路保障を通じて生徒・保護者・地域から信頼される魅力ある学校づくりを推進し、地域や社会に貢献する人材の育成を目指します。</li> </ul>
(2)	育みたい 児童生徒像	<p>「自律し、自立する大人へ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本的な生活習慣・社会規範を身に付け、何事にも意欲的、誠実に取り組み、社会の一員として自ら主体的に判断し、責任ある行動を取る生徒〔自律する力〕</li> <li>○ 社会の変化に対応するため、自らを高めようと、日々の授業を大切に、家庭学習等を通じ学力の定着と向上に取り組む生徒〔学力＝聴く力・読み取る力・考える力・書く力・話す力〕</li> <li>○ さまざまな教育活動を通じて、互いを尊重し合い、違いを認め合うことのできる心豊かな生徒〔自他理解力〕</li> <li>○ 学校行事や生徒会活動、部活動等の自主的活動に積極的に参加し役割を担うことにより責任感と協調性を身に付け、地域や社会に貢献できる生徒〔やり抜く力・協働する力〕</li> </ul>
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 率先して教育活動に取り組む意欲と活力ある教職員集団</li> <li>○ 生徒が「わかる」「力がつく」を実感できる授業を実践するため、公開授業や教科内・校内での改善活動を積極的に推進する教職員集団</li> <li>○ 教育に携る者としての自覚と規範意識を持ち、生徒への深い愛情に基づく教育を実践するとともに、同僚と協働することができる教職員集団</li> </ul>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>【生徒】充実した授業を受けたい。活発な部活動をしたい。進路希望を実現したい。</p> <p>【保護者】安全・安心の学校生活。卒業後の進路保障。モラルの向上。社会人として自立できる力を育てて欲しい。</p> <p>【地域】公共心とマナーの育成。地域の普通科高校として信頼できる教育を推進してもらいたい。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p>【保護者】毅然とした生活指導を行いながらも、子ども心に配慮した教育を行なって欲しい。</p> <p>【中学校】学校の様子、卒業生の近況報告、入試情報等を知らせて欲しい。</p> <p>【地域】交通マナー、公共の場でのマナーを守らせて欲しい。</p>		<p>【保護者】本校教育方針への理解と協力。家庭でのしつけと指導の強化。</p> <p>【中学校】連携を密にとりながら信頼関係を構築していきたい。</p> <p>【地域】本校の教育活動を理解し、協力してもらいたい。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 久居高校の先生は、生徒の話をよく聞いてくれるので、安心して学校に子どもを送り出すことができた。引き続き生徒の支援・見守りをお願いしたい。</li> <li>○ 久居高校の魅力は、進学にも就職にも対応できることである。特に公務員や看護系の志望者に対応できることに魅力を感じている中学生の保護者も多い。引き続き生徒の進路実現に向け、充実を図っていただきたい。</li> <li>○ 生徒アンケートの結果をみると、家庭での学習時間が少ない。家庭学習の習慣をつけることでさらなる学力アップにつなげていただきたい。</li> </ul>	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学力差が大きく、進路希望も多様である。教科学習に対し苦手意識が強い生徒や、目標達成に向け地道な努力を重ねることが苦手な生徒層も多いことから、自ら学ぼうとする意識を育てるための授業改善・授業力向上が求められる。</li> <li>○ 多様な生徒への対応が求められる中、面談等をととした生徒理解、生徒支援による丁寧な指導体制の充実を図っていく必要がある。</li> <li>○ 外部の協力を求めながら、生徒の進路選択、進路実現に向けた支援のための研修、セミナー等の充実を継続していく必要がある。</li> </ul>	

学校 運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業改善・授業力向上については、授業見学だけでなく研究授業や協議を行うことで、また生徒の人権が尊重される授業づくりの視点を踏まえた取り組みは、現職教育等を行うことで、本校の目指す教育についての共通認識を持つ必要がある。</li> <li>○ 具体的な活動・成果指標を客観的に計り、改善点を次年度に提示するシステムの構築が必要である。</li> <li>○ 教職員の勤務時間の縮減に向けて、業務のスリム化を一層進めるとともに、休業日の増設など、より目に見える形での方策を検討する必要がある。</li> </ul>
-----------	--

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 校訓の「意欲・誠実・創造」を実践することができる生徒を育む教育活動を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本的な生活習慣の定着・向上と規範意識を醸成し、社会生活において求められる力を育むとともに、互いを尊重する心、思いやりの心を育む生徒指導に取り組む。</li> <li>○ 学習習慣の確立・定着を通じて社会生活の基盤となる学力の向上を図る。</li> </ul> </li> <li>2. 多様な進路に応じたモデルコースと選択科目の設定、少人数授業により、一人一人の進路実現に向けたキャリア教育を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の多様な進路希望を実現するため各コースの取組の充実を図る。</li> <li>○ スポーツコースは、3年間を通して体育の専門科目をカリキュラムに取り入れた授業と校外実習等により、運動能力を生かし多様な進路が実現できるようサポートする。</li> <li>○ 普通コースは、「少人数授業」によるきめ細かな学習指導を行い、4年制大学・短期大学・専門学校への進学、就職（公務員試験対策含む）など多様な進路希望の実現をサポートする。</li> <li>○ チャレンジコースは、国公立大学、難関・中堅私立大学等への進路実現に向けた学習指導を行う。</li> </ul> </li> <li>3. 教育活動全体を通じて人権教育を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権が尊重される学校づくりの推進により、自己存在感、共感的人間関係、自己選択権・決定権の育成を図る。</li> <li>○ 生徒、教職員、保護者が差別につながる言動に出会ったときに気付くことができるよう、個別の人権問題にかかわる実践力を育むよう取り組む。</li> </ul> </li> <li>4. 学校行事や部活動、生徒会活動、ボランティア活動等を通じて責任感、協調性、礼儀、マナーを身に付け人間力の向上を図る。</li> </ol>
学校運営等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教職員の資質向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習指導要領と観点別評価、高大接続改革への対応。</li> <li>○ ICTの活用等による各コースの学びの充実を図る。</li> <li>○ 授業参観、教科会の活用を通じて教職員の授業力の向上に取り組む。</li> </ul> </li> <li>2. 地域への発信 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 広報活動の体制と内容を改善・充実させる。</li> </ul> </li> <li>3. 教職員の働きやすい環境づくり <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 総勤務時間を縮減し、働きやすい環境づくりを推進する。</li> <li>○ 部活動指導の工夫・改善、「部活動ガイドライン」への対応。</li> <li>○ 不祥事防止を他人事として捉えず、自分の問題として捉え、信頼される学校であるよう行動する。</li> </ul> </li> </ol>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育（進路指導）」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1. 校訓の「意欲・誠実・創造」を実践することができる生徒を育む教育活動を	<p>【1学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業、HR 活動、学校行事に積極的に参加し、お互いに高め合うことができる雰囲気醸成しながら、一人一人が全体のために行動できるようになる。</li> </ul> <p>(活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な生活習慣の確立と授業規律を守らせながら、生徒一人</li> </ul>	(年度末および適宜記載)	※

<p>推進します。</p>	<p>一人の成長を支援する。⇒ SHR・LHR・総合的な探究の時間・学年集会等、様々な場面で指導を展開していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・HR 活動や学校行事に積極的に取り組ませる。</li> </ul> <p>(成果指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学年学校遅刻数について、対前年度比で3パーセント減を目指す。</li> <li>・年度末にアンケートを実施し、HR 活動や学校行事の満足度 80パーセント以上を目指す。</li> </ul> <p><b>【2学年】</b></p> <p>○ 時間を守ることは基本的な生活習慣の一つであることを確認し、同時に授業規律の確立も念頭におきながら、集中して学習に取り組む雰囲気醸成する。頭髪服装等においても、校則の遵守・風紀の向上をめざす。(登校・授業遅刻の削減、風紀向上)</p> <p>(活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任は HR の時間を利用して説諭する。</li> <li>・生徒指導部と連携して指導にあたる。</li> <li>・学年集会や学年だより等でも折に触れて指導。</li> </ul> <p>(成果指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度遅刻数 5%減(昨年度、年間 354 件)</li> </ul> <p><b>【保健部】</b></p> <p>○新型コロナウイルス感染症の5類移行後も健康に過ごせるよう、基本的な生活習慣を大切にする指導を徹底するとともに、学年団・教科と連携し指導の充実をはかる。(保健)</p> <p>○様々な理由で悩みを抱える生徒の気持ちを聞き、学年団・教科と連携して支援にあたる。必要に応じてスクールカウンセラーやソーシャルワーカーにつなげる。中でも今年度は、特別支援的なサポートが必要な生徒がよりよい学校生活を送れるよう、発達支援員と連携して指導にあたる。(教育相談)</p> <p>(活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健だより等の掲示物で基本的な生活習慣の大切さを周知する。</li> <li>・保健室利用時の問診等を通して生徒自らが生活習慣を改善できる力を養う。</li> <li>・生徒が健康状態・悩みについて相談しやすいよう学年等と連携して生徒への声かけを行う。</li> <li>・発達支援員による職員研修を実施し、特別支援に関して教職員間で問題意識を共有する。</li> </ul> <p>(成果指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科検診で受診勧告をした生徒の受診報告書の回収率 10%</li> <li>・学校生活アンケート「自分の悩みを相談できる先生がいる」の項目で「思う」と回答する生徒の割合が前年度(43%)を上回る。</li> <li>・職員研修後に満足度調査を実施し、満足度70%を目指す。</li> </ul>		
<p>2. 多様な進路に応じたモデルコースと</p>	<p><b>【3学年】</b></p> <p>○生徒一人一人に対して、将来を見据えたきめ細かな進路指導</p>		<p>※</p>

選択科目の設定、少人数授業により、一人一人の進路実現に向けたキャリア教育を推進します。

を行う。

(活動指標)

・進路先でやりがいを持ち続けられるよう、学力および自己管理能力を向上させる。

(成果指標)

・模試の結果において、前回比・前年比で判断する。数値の向上を目指す。

・振り返りのアンケートから算出される成長度や満足度で判断する。それぞれ80%以上を目指す。

【進路指導部】

○生徒の多様な進路希望にきめ細かく対応するため、各学年団、各分掌、各教科と連携して進路指導の内容を充実させ、生徒満足度の高い進路指導を展開する。

(活動指標)

・各セミナー別指導で3年担任団と協働し、情報を共有して生徒の学習を支援することで、生徒の進路実現をサポートする。

・課外授業や面接、志望理由書作成の指導に多くの教員が関わることで、生徒への個別指導を充実させる。

・進路指導部の考え、取り組みや悩みを職員会議等で発信する。各分掌との連携を大切にする。

(成果指標)

・年度末に3年生全員への進路指導満足度調査を実施すると共に、各セミナー指導に対する調査も実施し、満足度90%以上を目指す。

【体育コース】

○職員研修後に満足度調査を実施し、満足度70%を目指す。

(活動指標)

・授業の開始時のめあての確認を必ずする。

・映像などを使い、自分や他者の動きを確認させる。

・グループで練習法や作戦などを確認させ、考えを共有させる。

・授業の最後に振り返りをする。

(成果指標)

・学年末にアンケートを実施し、生徒満足度80%以上とする。

【チャレンジコース】

○チャレンジコースの系統的な指導体制を充実させ、確実な学力を身につけさせると共に、チャレンジコース教科担当教員の進学指導力を向上させる。

(活動指標)

・各学年、チャレンジコース教科担当者会議(模試分析など)を定期的に実施する。

・課外授業等を活用しながら、より充実した教科指導体制を構築していく。

・学習研究部とタイアップした指導により1年次から系統的指導を

	<p>行う。</p> <p>(成果指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末に3年生全員への進路指導満足度調査を実施すると共に、チャレンジコースの指導に対する調査も実施し、満足度 90%以上を目指す。</li> </ul>		
<p>3. 教育活動全体を通じて人権教育を推進します。</p>	<p><b>【人権教育担当】</b></p> <p>○あらゆる機会(授業・HR 活動・部活動・日常での関わりなど)を通して生徒の人権を尊重することにより、人権教育を日常の教育活動としていくことをめざす。</p> <p>(活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生徒の人権が尊重される授業作り(関わり)」の検証</li> <li>・LHR を活用した人権学習の取組の検証</li> <li>・人権侵害事象発生時における対応力の獲得</li> </ul> <p>(成果指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「人権教育カリキュラム」に基づいた取組を実践し、人権教育推進度の達成率が 80%以上になることをめざす。</li> <li>・生徒アンケートにおいて、学習達成度 80%以上をめざす。</li> </ul>		
<p>4. 学校行事や部活動、生徒会活動、ボランティア活動等を通じて責任感、協調性、礼儀、マナーを身に付け人間力の向上を図ります。</p>	<p><b>【生徒指導部】</b></p> <p>○問題行動(遅刻、交通マナー、訓戒、謹慎、懲戒等)を抑止し、生徒指導件数を少なくする活動をすすめる。</p> <p>(活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会と連携し生徒と教職員が納得するルールづくりを推進する。</li> <li>・日頃から小まめに声かけをし、問題行動の抑制に繋げる。</li> <li>・JAF と連携し、ヘルメットの着用率を向上させる取組みを推進する。</li> </ul> <p>(成果指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会との対話を学期に1回以上行う。</li> <li>・毎月1回継続指導者に声かけをする。</li> <li>・昨年度の生徒指導件数比10%減</li> <li>・ヘルメット着用率を向上させる(現在 15 人)</li> </ul>		※
改善課題			
(年度末に記載)			

## (2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1. 教職員の 資質向上	<p>【教務部】</p> <p>○ 授業参観、教科会の活用を通じて教職員の授業力の向上に取り組む。</p> <p>(活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教員が授業を通して、生徒の学力向上、人間力向上に努める。</li> <li>・ChromeBook の授業等活用と百問繚乱の問題採点活用についての研修を行う。</li> </ul> <p>(成果指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教員の授業参観及び校内研修参加回数平均3回以上。</li> <li>・生徒の授業満足度 80%以上。</li> <li>・ICT 機器を有効に活用できた教員 80%以上。</li> </ul>	(年度末および適宜記載)	◎
2. 地域への 発信	<p>【総務部】</p> <p>○ 中学生に対して魅力あるメッセージが届けられるように、オープンスクールの実施内容やホームページの充実を図る。</p> <p>(活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンスクールにおいて本校のコース制について分かりやすく伝える。</li> <li>・生徒の活躍が伝わるようホームページの更新を増やす。</li> </ul> <p>(成果指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートにおいて、「以前よりも本校に興味が出た」80%以上を目指す</li> </ul>		
3. 教職員の 働きやすい 環境づくり	<p>【管理職】</p> <p>○ 過重労働時間の減少を図る。</p> <p>(活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月 2 回の定時退校日を設定する。</li> <li>・会議資料の精選やデスクネットを活用し、会議時間の短縮をさらにすすめる。</li> <li>・45 時間以上の過重労働職員の数を 0 人とする。</li> <li>・休暇取得を増加させる。</li> </ul> <p>(成果指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月 2 回の定時退校日（原則第 2・4 の月曜日）に定時に退校できた職員の割合を 80%以上にする。</li> <li>・放課後に開催された会議のうち、60 分以内で終了した会議の割合を 100%とする。</li> <li>・休暇取得 24 日以上、うち年休取得 14 日以上を目指す。</li> <li>・年 360 時間を超える時間外労働者数を 0 人とする。</li> <li>・月 45 時間を越える時間外労働者の延べ人数を 0 人とする。</li> </ul> <p>○ 部活動休養日を設定する。</p> <p>(活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動休養日を原則週 1 回土・日（試合等がある場合は翌週）に設定する。</li> </ul>		◎

	<p>(成果指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週1回設定できた部活動の割合を100%とする。</li> </ul> <p>○不祥事を根絶するため、職員への啓発を図る。</p> <p>(活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「信頼される学校であるための行動計画」に則った活動・点検を行う。</li> </ul> <p>(成果指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「信頼される学校であるための私の行動計画」の自己評価で「できた」と答えた職員の割合を100%とする。</li> </ul>		
<b>改善課題</b>			
(年度末に記載)			

## 5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	(年度末に記載)
----------------------------	----------

## 6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	(年度末に記載)
<p>学校運営についての改善策</p>	(年度末に記載)